

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

カルチャーショックを愉しむ ～韓国赴任を振り返って～



茨城県国際課 係長 菊地 和幸

振り返れば、赴任する前から始まっていました。

「敷金 200 万円を韓国の銀行に振り込んでください」

200 万円は私がソウルで入居した賃貸住宅の敷金です。赴任直前に用立てる必要に迫られ、文字どおり絶句しました。韓国の賃貸事情は別の説明に譲るとして、日本では考えられない高額敷金が韓国には存在します。

カルチャーショックを愉しむ

カルチャーショックは赴任後も続きました。

語学学習のため韓国人の友人を作ることは有効ですが、驚いたのは友人の多くがキリスト教徒であることです。

聞けば人口の 30 %以上がキリスト教徒ということで、1 %程度の日本と比べると驚くべき数値です。

また、韓国では女性はもちろん男性にもホクロがほとんどありません。美肌を好む韓国ならではの、1 つ約 1,000 円で除去できるようです。この他、親しくなると酒や食事に誘ってくれますが、大抵は「今日これから」というように急なお誘いになりがちです。

主張はハッキリしています。意志を貫くためには口喧嘩も厭いません。むしろ互いを理解できると考えているようで、口喧嘩のあとは後腐れもなく清々しいものです。

こうした話は尽きることがありませんが、私はこうしたカルチャーショックを積極的に愉しんでいました。要するに韓国のモノの見方や考え方が日本とは大きく異なることを愉しんだのです。日本の常識は通用しないし、しっかりと主張しなければ主張そのものが無かったことになり。隣の国でこれですから、ほかの国で日本の常識が通用するはずがありません。

茨城県人会を愉しむ

さて、私は運が良いのか悪いのか、茨城県初のソウル派遣職員であり、自分なりに何を残せるかと思案していました。ソウルには日本人コミュニティがそれなりに発達していますが、今後、茨城県が韓国で事業を展開する

うえで、その応援団ともなりうるネットワーク「茨城県人会」を立ち上げることに決めていました。

問題は赴任 1 年を過ぎても、茨城県にゆかりのある知人が 2 名だけであったということです。ここで私がとった戦略は実に稚拙なものでした。しっかり主張することです。とにかく周囲の人に県人会設立の意志を伝え、メール等で呼びかけました。これには予想以上の反響があり、結果的に筑波大学への元留学生など 10 名以上の参加のもと、7 月 10 日（納豆の日）に第 1 回茨城県人会を開催するに至りました。

その後は、口コミを通じて次第に人が集まり、帰任直前には 40 名以上の方々に登録いただけるまでに成長しました。現在も後輩赴任者が大切に育ててくれています。



帰任直前に開催した茨城県人会にて
(中央が筆者)

帰国後を愉しむ

帰国後は G7 伊勢志摩サミットの関係閣僚会合である科学技術大臣会合をつくば市に誘致し、その後の開催支援までを一貫して担当しました。開催支援では、おもてなしや警備をはじめ広範囲に及ぶ調整案件が山積し、関係者との調整に苦労しました。幸いにも良いメンバーに恵まれ、楽しみながら最後まで走り切れたことは大きな自信に繋がっています。

常識は通用しないことを前提にしっかりと主張すること。韓国で経験したカルチャーショックが、これからも自分を成長させてくれると確信しています。

プロフィール

- 現在の所属・役職：茨城県国際課国際戦略 G 係長
- 現在の業務内容：対日投資誘致、国際会議誘致等
- クリア時代の所属：
H23.4～H24.3 クリア東京本部企画調査課 主査
H24.4～H26.3 クリアソウル事務所 所長補佐